

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
M212R301		母性看護方法論 (Maternal Nursing Practice II)					母性看護学								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	3	医学部看護学科	前期	木1,木2	日本語		複数(共同)							
担当教員	氏名 幸松美智子、小柳麻央、江藤千晴、三重野英子、小野光美、阿部世史美、 非常勤講師：林猪都子、鈴木祐子、中島洋子 特別講演講師：三重野真美 新生児集中ケア認定看護師：石井真由														
	E-mail yukimats@oita-u.ac.jp (幸松) 内線 5075 (幸松)														
授業の概要	周産期(産褥・新生児期)の生理的变化およびハイリスク状態の母子とその家族を理解するための知識と援助の基本を学ぶとともに、ライフサイクルを通した性・生殖に関する課題や看護の意味を考える。さらに、母性看護の実践に向けた思考過程および看護技術の習得をめざす。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	産褥・新生児期の生理的变化およびハイリスク状態にある母子について理解し、家族を含めたアセスメントができる。							○		○					
目標2	産褥・新生児期(ハイリスク状態を含む)にある母子とその家族へのセルフケア支援を含めた看護について説明できる。							○		○					
目標3	ライフサイクルを通して、性と生殖に関する課題や看護について説明できる。							○		○					
目標4	妊婦健康診査時・新生児の看護に求められる看護技術の基礎を習得できる。							○	○						
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								5	1	4					
授業の内容															
1	産褥期の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
2	産褥期の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
3	産褥期の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
4	産褥期の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
5	褥婦と家族の看護														
6	褥婦と家族の看護														
7	新生児の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
8	新生児の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
9	新生児の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
10	新生児の生理と正常逸脱およびアセスメント・ケア														
11	地域に根差した母性看護の実践・災害看護														
12	地域に根差した母性看護の実践・国際看護														
13	ライフサイクルを通してみる性と生殖課題 1														
14	不妊看護のあゆみと看護者の役割・課題														
15	母性看護技術の演習/No.19,20に向けた事前演習														
16	母性看護技術の演習/No.19,20に向けた事前演習														
17	母性看護技術の演習/No.19,20に向けた事前演習														
18	母性看護技術の演習/No.19,20に向けた事前演習														
19	包括的性教育の本質とその実践														
20	包括的性教育の本質とその実践														
21	NICUにおける看護の実践														
22	ライフサイクルを通してみる性と生殖課題 2、授業評価														
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認	○	・グループワーク			工夫その他の	・技術演習では、デモンストレーションを行いながら看護技術の根拠を示す。								
	B:意見の表現・交換	○	・技術演習												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	教科書および講義で紹介する文献を用いて、次の学習内容について予習する（11.5h）											
	事後学修	講義を受け、考えたり、気づいたりしたことをアクションレポートにまとめ、復習する。（11.5h）											
	想定時間合計	23											
教科書	教科書は4冊です（備考欄にも提示） ・中込さと子他（2024）：ナースング・グラフィカ母性看護学 概論・リブダクティブヘルスと看護、第3版、メディカ出版、ISBN978-4-8404-8160-1 ・小林康江他（2024）：ナースング・グラフィカ母性看護学 母性看護の実践、第3版、メディカ出版、ISBN978-4-8404-8161-8 ・医療情報科学研究所編集（2018）：病気がみえるVol.10産科、第4版、メディクメディア、ISBN978-4-89632-713-7												
参考書	・一般財団法人 厚生労働統計協会（2024）：厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2024/2025、第71巻、第9号、ISSN0452-6104												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	期末試験	90%	○	○	○	○							
	アクションレポート	10%	○	○	○	○							
注意事項													
備考	教科書続き ・医療情報科学研究所編集（2018）：病気がみえるVol.9婦人科・乳腺外科、第4版、メディクメディア、ISBN978-4-89632-712-0												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無	○												
教員の 実務 経験	幸松（看護師）、小柳（看護師・助産師）、非常勤講師・特別講師（看護師・助産師）												
実務経験を いかした教 育内容	臨床経験の積み重ねによる実践知や教育研究実績による知見・理論を用いた教育を展開する。												